

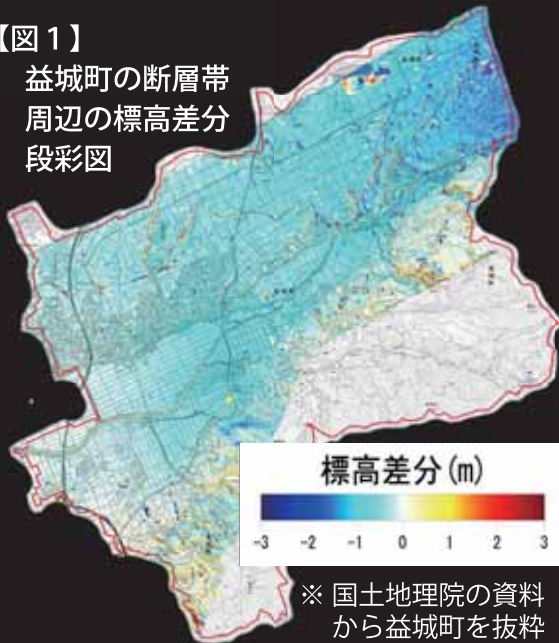
いったい何が

起きていたのか…

— “衝撃、の実態” —

【図1】

益城町の断層帯
周辺の標高差分
段彩図



今回の地震は二つの断層帯が連動し、地盤がおおむね南北に引っ張られて起こった横ずれ断層型で、震源が浅く軟らかい地盤であったために揺れが大きくなったと考えられています。本震の揺れは阪神・淡路大震災以上とも言われており、地盤のずれは町内各地でみられ、

2度にわたる震度7の地震と頻発する余震でまちの景色は一変。いったいこの町で、何が起きていたのでしょうか。

益城町には、布田川断層帯が横切っており、その木山付近で木山断層が分岐し、小池付近で日奈久断層帯の北端部が分岐するようにつながっています。

政府地震調査研究推進本部の平成28年熊本地震の評価によると、4月14日の前震は日奈久断層帯、16日の本震は布田川断層帯の活動によるものとされています。

【図2】

益城町の断層帯
付近の亀裂分布図

4/16 1:25 M7.3
深さ 12㎞ 益城町震度7



一方、町内の道路では、いたる所でマンホールが突出したり橋りょうが浮き上がったたりしており、広範囲にわたって地盤が大きく沈下したとみられます。

なお、国土地理院の報告では、布田川断層帯の北側で最大1.5m以上が沈み、南側で30cm以上が隆起したとされています。※図1参照：航空レーザー測量で求めた地震後の標高を平成17年度のデータと比較。

大字 上陳の堂園地区付近では、およそ2.5mのずれが確認されています。

一方、町内の道路では、いたる所でマンホールが突出したり橋りょうが浮き上がったたりしており、広範囲にわたって地盤が大きく沈下したとみられます。

布田川断層帯
日奈久断層帯

